

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	I期肺癌に対する VMAT-SBRT と Scanning 炭素線治療の線量分布比較に関する研究
	研究目的	放射線治療はI期肺癌に対する根治的な治療方法のひとつである。これまで良好な成績が報告されています。一方で長期生存が得られるようになると、放射線治療による晩期毒性が問題となります。特に心臓や肺への毒性は時に致死的となることもあり、これらの臓器への有害事象の軽減が重要です。 回転型強度変調放射線治療(VMAT)を用いた体幹部定位放射線治療(SBRT)では、標的体積に対して良好な線量集中性を示すが、周囲の正常臓器には広く低線量が照射されます。当院では従来法を改善させた scanning 法による炭素イオン線治療(sCIRT)を採用しています。VMAT-SBRT、sCIRT も治療技術進歩による線量分布の改善が期待されますが、その直接的な比較をした報告はありません。 I期肺癌に対する放射線治療において、VMAT-SBRT と sCIRT の線量分布を比較検討し、至適な照射方法について定量的に解析します。
	研究対象者	2018年1月から2020年4月までに当院で放射線治療を開始したI期肺癌の患者さん15名を対象とします。
	研究期間	西暦 2021年5月7日～西暦 2021年12月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(放射線治療計画データ) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録 <input type="checkbox"/>	
試料・情報の管理についての責任者	当センター	吉田 大作
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	放射線治療科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	とくに共同研究機関はありません。